

米国図書館界における At-risk 状態要因カテゴリ毎の図書館サービスの傾向に関する研究 ——YALSA ジャーナル投稿記事の内容分析を通して——

那 珂 元

A Study on Trends of Library Services for Teenagers with Various
Types of At-risk Factors in the United States
-A Content Analysis of Articles from the YALSA Journal-

NAKA Hajime

2020年11月6日受理

抄 録

本研究では、YALSA ジャーナルに過去10年間（2005年～2015年）に投稿された記事の内容分析を通して、米国の公共図書館において多様な At-risk 状態の要因毎に実際にどのような図書館サービスが提供されているのか、その傾向を把握した。分析の結果、米国の図書館では、At-risk 状態の要因毎に多様な図書館サービスが提供されていることが分かった。その一方で、これらの図書館サービスが主に「蔵書構築」、「アウトリーチ」、および「図書館プログラムの構築」の三つに偏向する傾向があり、さらに、そのうち「蔵書構築」および「アウトリーチ」とのサービス間では、提供対象者がはっきり分かれる二極化の傾向があることも明らかになった。今後の展開として、日本の公共図書館における児童サービス、ヤングアダルトサービス、および多文化サービスのなかで、At-risk 状態の要因を持つ若者に対して、どのような図書館サービスが提供されてきたのかを把握する研究が望まれる。

キーワード：図書館サービス ヤングアダルトサービス At-risk YALSA
内容分析

1. 背景（先行研究）

経済的、社会的、および文化的な事情により弱い状況に置かれている人々に対する支援の必要性が指摘されるなか、米国の図書館における、若年層の図書館利用者を対象とするヤングアダルトサービス（以降、YA サービスと呼称する）では、さまざまな背景や問題を抱えている At-risk 状態の10代若者への教育的および社会的支援の一つの在り方として、図書館サービスのさらなる提供が期待されてきた。At-risk 状態の10代若者に対する米国の図書館サービスを網羅的に調べた先行研究としては、

那珂（2016）の研究がある。那珂（2016）は、IFLA, ALA, および YALSA が作成した図書館の報告書やガイドラインなど主要文献の内容分析を行い、過去 10 年間の米国の図書館界における At-risk 状態の若者に対する認識、および提供されている図書館サービスの推移を明らかにした。しかし那珂（2016）の先行研究は、IFLA, ALA, および YALSA 関連の限定された文書や指針、年次報告書の内容分析のみにとどまっているため、米国の図書館の現場において、実際に展開されている At-risk 状態の要因毎の図書館サービスの傾向を掴むことはできていない。

2. 研究目的（最終的な獲得目標）

そこで本研究は、米国の図書館における At-risk 状態の 10 代若者に対して提供されている図書館サービスの種類とその傾向を網羅的に把握することを目的とする。

3. 本研究の意義

米国の図書館界における At-risk 状態の 10 代若者に対する図書館サービスの種類や傾向が明らかになれば、近年、日本の社会のなかでも認識され始めている多様な背景や問題を抱えている 10 代若者に対する図書館サービスの在り方を議論するための比較材料となり得る、という意味で、本研究の意義は大いにある。

4. 研究課題

上記の研究目的を達成するため、米国の図書館において展開されているティーンエイジャーを対象とする様々な図書館サービスや図書館イベントの実践報告および事例研究を主要な記事構成とする米国図書館協会ヤングアダルト図書館サービス部会（以下、YALSA と呼ぶ。）が出版している E- ジャーナルである *Young Adult Library Services (YALS)* に投稿された記事を対象に、記事の内容分析のを行い、米国の図書館界における At-risk 状態の 10 代若者を対象とした図書館サービスの過去 10 年間の事例報告や事例研究を概観し、At-risk 状態の要因毎の図書館サービスの傾向を明らかにすることを、研究課題として設定した。研究質問は以下の通りである。

RQ：米国の図書館において、At-risk 状態の要因毎に、どのような図書館サービスが提供されているのか、また、どのような傾向があるのか？

5. 方法

本研究では、上記の研究課題を達成するため、米国公共図書館における YA サービスでの取り組み事例を扱った記事が多く投稿されているヤングアダルト図書館サービス協会発行の「YALSA ジャーナル」に、2005 年から 2015 年までの 12 年間に掲載された At-risk 状態の若者に対する図書館サービスを扱った記事 99 件の内容分析を行った。具体的なデータ収集と分析の手順は、以下の通りである。

5.1 データ収集の手続き

まず、図書館情報学分野における代表的な検索データベースの一つである *Library & Information Science Abstracts* (通称 LISA) データベースを使用して、2005 年から 2015 年までの過去 10 年間に YALSA journal に投稿された全記事に対して、以下に記載した通り、At-risk youths の関連用語を検索語に設定したシステムティック・レビューを実施し、162 件の記事を抽出した。次に、LISA データベースのダウンロード機能を使用し、抽出した 162 件の記事を、MS エクセルシートにリスト化した。その後、検索語などの微調整を行い、再度システムティック・レビューを実施し 116 件まで絞り込んだ。次に、絞り込んだ 116 件の記事のアブストラクトおよび全文検索でヒットした At-risk youths の関連用語をそれぞれハンドリング作業をとおして抽出し、エクセルに追加記載した。最後に、エクセル上で 116 件の記事のアブストラクト全てを点検し、図書館の実践報告や研究報告ではない内容の記事（例えば、単なるヤングアダルト向け資料の一覧）を除外し、最終的に 99 件の記事に絞り込んだ。

(LISA データベースを使用した At-risk youths の検索語を抽出するための検索式)

```
pubid(42467) AND (underserved OR unnerved OR At-risk OR "At-risk student" OR disability OR disabilities OR disadvantaged OR marginal OR deprived OR low-income OR impoverished OR abuse OR "school refusal" OR "school failure" OR "school anxiety" OR "withdrawal" OR "dropout" OR "dropouts" OR "dropping out" OR "school dropout" OR "school leaver" OR delinquent OR delinquency OR depression OR "special need" OR "special needs" OR "learning problem" OR "learning disability" OR minority OR minorities OR bullying OR "foster care" OR "gang affiliation" OR homeless* OR "sexual orientation" OR "mental health" OR "mental illness" OR immigration OR immigrant OR hispanic OR african OR latino OR poverty OR pregnancy OR dismissal OR "non-English" OR "LGBT" OR "GLBTQ" OR "LGBTQ" OR detention OR jail OR "digital divide" OR "teen parenthood")
```

5.2 データ分析の手続き

記事の内容分析にあたっては、まず、記事の概要および全文の記述内容を読み、当該記事で議論されているテーマ（話題）を捉えてコーディングした。次に、記事の著者の所属、記事の中で報告されている主要な図書館サービスの種類、記事のなかで扱われている At-risk 状態の要因、さらに図書館以外でのサービス提供場所が記事に記載されている場合にはその場所についてそれぞれ捉えてコーディングし、エクセルシートに追加記載していった。なお、コーディングに際しては、それぞれの記事にタグ付けされている「サブジェクト」は、本研究の At-risk 状態の要因カテゴリ毎の図書館サービスを抽出する、という本研究の目的とそぐわないため使用しなかった。また、それぞれの記事に記載されている「キーワード」についても、同様の趣旨から、本研

究では使用しなかった。

6. 分析結果

全 99 件の記事の内容分析を通して、At-risk youths を対象に展開されている（もしくは提供が期待されている）図書館サービス毎にコーディングし、カテゴリ分けした。その結果以下の通りとなった。

「蔵書構築」が 30 件と最も多く全体の約 3 割を占めていた。次いで「アウトリーチ」(24 件)、「図書館プログラムの構築 (ICT を活用したプログラム、メディア・リテラシー・プログラム、学習支援を含む)」(18 件)、「YA を対象とするレファレンス・サービス」(7 件)、「情報格差 (デジタル・デバイド) を解消するための各種 ICT の導入・活用、およびインターネットへのアクセスの促進」(6 件)、「その他の YA サービス」(3 件)、「図書館スペースの構築 (学習スペースや居場所づくり等)」(3 件)、その他 (8 件) であった。また、その他 (8 件) の内訳では、「At-risk youths を意識した YA サービスのウェブページの構築」、「支援団体・組織との連携」、「さまざまな文化的背景を持つ図書館司書の雇用」、「テクノロジーを活用したリテラシーの促進」、「特別な支援を必要とする利用者を対象とするデジタル資源やアプリの開発支援」、「ティーンエイジャーの情報行動や情報ニーズに関する図書館情報学での教育促進」、「YA サービスの評価」、「ホームレスのティーンエイジャー向け図書館プログラムを策定できる図書館司書の育成」がそれぞれ挙げられていた。

表 1
図書館サービスの内訳

記事で取り上げられている図書館サービス	件数
蔵書構築	30
アウトリーチ	24
図書館プログラムの構築	18
YA サービス (レファレンス)	7
デジタル・デバイドの解消/インターネット・アクセス	6
YA サービス (その他)	3
図書館スペース構築 (学習スペースや居場所づくり等)	3
その他	8
計	99

続いて、上記の示した図書館サービスの具体的な内容を把握するため、全 99 件の記事のなかで取り上げられている主なテーマをコーディングし、カテゴリ分けした。その結果、「At-risk youths 向け / At-risk 状態を題材とする選書」を主なテーマとする記事が最も多く (30 件)、続いて「サービスが十分に行き届いていないティーンエイジャーへのアウトリーチ・プログラム」(24 件)、「ICT に基づく各種プログラム、メディア教育、・メディア・リテラシー教育」(11 件)、「At-risk youths 向け図書館

プログラム」(9件)、「ティーンエイジャーの情報ニーズや情報行動」(8件)、「学習支援」(7件)、「At-risk youths 向けの YA サービス担当図書館員の養成」(4件)、その他(6件)であった。また、その他(6件)には、「ネットいじめなどティーンエイジャーの問題行動の把握」、「At-risk youths 向け図書館スペースづくり」、「ティーンエイジャー向けサービスの評価」、「YALSA ポリシーと能力 (YA ライブラリアンとしての能力)」などといったトピックが含まれていた。

表 2
テーマの内訳

記事で取り上げられているテーマ	件数
At-risk youths向け/At-risk状態を題材とする選書	30
サービスが十分に行き届いていない若者へのアウトリーチ・プログラム	24
ICTに基づく各種プログラム、メディア教育、メディア・リテラシー教育	11
At-risk youths向け図書館プログラム	9
10代若者の情報ニーズや情報行動	8
学習支援	7
At-risk youths向けのYAサービス担当図書館員のトレーニング	4
10代若者の問題行動 (ネットいじめ)	2
図書館資料の充実	1
At-risk youths向け図書館スペースづくり	1
10代若者向けサービスの評価	1
YALSAポリシーと能力 (YAライブラリアンとしての能力)	1
計	99

以下に、記事で取り上げられている図書館サービスのうち、上位3つの図書館サービス、「蔵書構築」、「アウトリーチ」、「図書館プログラムの構築 (ICT を活用したプログラム、メディア・リテラシー・プログラム、学習支援を含む)」のそれぞれの詳細について、記事のアブストラクト、および全文の要約から見いだしたトピック (話題) を中心に、内容分析の結果を記す。

6.1 蔵書構築 (30 件)

At-risk 状態の 10 代若者を対象とする図書館サービスのなかで最も多く取り上げられていた「蔵書構築」(30 件) の想定されている対象者別内訳を見ると、『LGBT または LGBTQ の若者』を対象とした資料の選書 (13 件)、『身体的・精神的な障害を持つ若者』を対象とする選書 (5 件)、『文化的・民族的なマイノリティーに属する若者』を対象とする選書 (5 件)、その他 (7 件) であった。その他 7 件の内訳では、『文化的・民族的なマイノリティーに属する若者』(4 件)、『いじめやネットいじめ被害者または加害者の若者』(1 件)、肉体的もしくは性的虐待を受けている若者 (1 件)、若年妊娠の若者 (1 件) など、多岐にわたる At-risk 状態の 10 代若者を対象とした選書が挙げられていた。

表 3 想定される「蔵書構築」のサービス対象者

想定される「蔵書構築」の対象者	件数
LGBTもしくはLGBTQなど異なる性的指向を持つ若者	13
身体的・精神的障害、メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態や学習障害を持つ若者	5
文化的・民族的なマイノリティーに属する若者	5
サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk状態の若者	4
いじめ、ネットいじめの被害者または加害者	1
肉体的もしくは性的虐待を受けている若者	1
若年妊娠の若者	1
計	30

また、「蔵書構築」（選書）について取り上げられているテーマ毎に整理すると、At-risk 状態の 10 代若者を対象とする選書の必要性を訴えている記事が全体の 57%（17 件）、また At-risk 状態の 10 代若者が抱えている諸々の問題や困難それ自体について書かれている資料の選書の必要性を訴えている記事が全体の 42%（13 件）であった。前者 17 件の内訳では、『LGBT もしくは LGBTQ の若者向け』の資料（6 件）、『障害やメンタルヘルスに問題を持つ若者向け』の資料（5 件）、『文化的・人種的に多様な背景を持つ若者向け』資料（3 件）、『At-risk 状態の若者向け』資料（2 件）、『読書嫌いの若者向け』の資料（1 件）であった。また、後者 13 件の内訳では、【LGBT もしくは LGBTQ の人物像】について書かれている資料（7 件）が最も多く、その他【At-risk 状態にある 10 代若者全般】について書かれている資料（1 件）、【いじめ】について書かれている資料（1 件）、【宗教やスピリチュアリティ】について書かれている資料（1 件）、【避妊（産児制限）】について書かれている資料（1 件）、【豊かな感情や共感の育成】について書かれている資料（1 件）、【多様な家族観】について書かれている資料（1 件）であった。

表 4 想定される「蔵書構築」のサービス対象者

蔵書構築（テーマ別）	件数
資料選定（LGBTQ等について書かれている資料）	7
資料選定（LGBTQの若者向けの資料）	6
資料選定（障害やメンタルヘルスに問題を持つ若者向けの資料）	5
資料選定（文化的・民族的な背景を持つ若者向けの資料）	3
資料選定（At-risk状態の若者向けの資料）	2
YA向け資料の選定におけるライブラリアンシップ	1
いじめ防止のための各種資料収集	1
資料選定（宗教やスピリチュアリティについて書かれている資料）	1
資料選定（読書嫌いの若者向けの資料）	1
資料選定（避妊について書かれている資料）	1
資料選定（豊かな感情や共感を育てるための資料）	1
資料選定（様々な家族の在り方を描いている資料）	1
計	30

以上の分析結果から、次の二点が分かった。一点目として、過去 10 年間の米国の図書館界においては、資料提供の対象者としての At-risk 状態の 10 代若者が個別具体的な利用者カテゴリとして認識されていることである。このことは、米国の図書館界において At-risk 状態の 10 代若者に対する関心や理解が、各論としてある程度深まっていることを示唆している。二点目として、過去 10 年間の At-risk 状態の 10 代若者を対象とした蔵書構築にもとづく資料提供サービスの傾向として、LGBT もしくは LGBTQ の 10 代若者を対象とした資料、もしくは彼／彼女らが抱える問題や困難について書かれている資料の選書が全体の 30 件のうち 13 件を占めている点である。このことは、米国の図書館界が、LGBT もしくは LGBTQ の 10 代若者と彼／彼女らが抱える問題・困難に対して強い関心を持っていることを示唆している。

6.2 アウトリーチ (24 件)

「蔵書構築」の次いで記事のなかで取り上げられていた「アウトリーチ」(24 件)について、アウトリーチ先の施設・団体の内訳を調べた。その結果、「少年院施設や地域の拘置所」へのアウトリーチが 10 件と最も多く、続いて「サービスが十分に行き届いていない 10 代若者が居住する地域コミュニティ」(6 件)、「地域のホームレスのシェルター」(3 件)、「病院」(1 件)、「オルタナティブ・スクール」(1 件)、「学校内外の子育て支援の窓口、クラス、支援団体」(1 件)、「リクリエーション施設」(1 件)、アウトリーチ施設全般 (1 件)、不明 (1 件) がそれぞれ挙げられていた。その一方で、『地域の支援団体』(5 件) や『家族の支援グループ』(1 件) など、これまで図書館サービスが十分に行き届いていなかった 10 代若者を支援する施設・団体や、家族による支援・自助グループなどを支援対象とするアウトリーチ・プログラムの重要性を指摘する、もしくは実践報告をしている記事も少なからず存在した。

表 5
アウトリーチ先として挙げられている施設・団体

アウトリーチ先の施設・団体	件数
少年院施設や地域の拘置所	10
サービスが十分に行き届いていない10代若者が居住する地域コミュニティ	6
地域のホームレスのシェルター	3
病院	1
オルタナティブ・スクール	1
学校内外の子育て支援の窓口、クラス、支援団体	1
リクリエーション施設	1
不明	1
計	24

また、アウトリーチの具体的な内容が取り上げられているテーマ毎に整理してみると、「少年院施設や鑑別所に収監されている若者への資料提供、読書案内、およびデジタル機器・デジタル資源の提供」を目的としたアウトリーチ（7件）が最も多く、続いて、「地域コミュニティと連携したアウトリーチや関連施設や団体との連携を通じた学習支援を含む様々な支援」（6件）、「ホームレス状態の若者向けの資料選定もしくは学習支援」（3件）、その他（8件）であった。また、その他8件のなかには、「ヤングアダルト一般向けの資料選定」、「オルタナティブ・スクール内でのアウトリーチ」、「矯正・リハビリ施設内でのアウトリーチ」、「特別な支援を必要とする人へのアウトリーチ」、「ラテンアメリカ系の若者へのアウトリーチ」、「移民の若者に対するサービス提供」、「10代若者向けサービスのガイドライン策定」、「難民の若者を対象とした図書館サービス」が、それぞれ1件ずつ挙げられていた。

表 6
アウトリーチのテーマ別の内訳

アウトリーチ（テーマ別）	件数
少年院施設内でのアウトリーチ、デジタル機器やデジタル資源の提供	7
地域コミュニティ、関連施設や団体、親のグループと連携した各種アウトリーチ、学習支援	6
ホームレスの若者向けの資料選定、または学習支援	3
オルタナティブ・スクール内でのアウトリーチ	1
ヤングアダルト一般向けの資料選定	1
ラテン・アメリカ系の若者へのアウトリーチ	1
移民の若者に対するサービス提供	1
矯正・リハビリ施設内でのアウトリーチ	1
若者向けサービスのガイドライン策定	1
特別な支援を必要とする人へのアウトリーチ	1
難民の若者を対象とした図書館サービス	1
計	24

以上の分析結果から、次の二点が分かった。一点目として、分析結果に表れている多様なアウトリーチ先から、米国の図書館が、「図書館サービスが行き届いていない」潜在的利用者層をカテゴリ毎に分けたうえで、それぞれのカテゴリに属する利用者層が関連している施設・団体および支援者グループへのアウトリーチの必要性を十分認識していることが示唆された。とりわけ、少年院施設等に収監されている10代若者を主なアウトリーチ・プログラムの提供対象者層として捉えていることが分かった。二点目として、米国の図書館における At-risk 状態の若者を対象とするアウトリーチ・プログラムが、資料の選定や資料提供サービスだけにとどまらず、読書活動の推進、デジタルリテラシー教育、学習支援、親を支援する図書館プログラムの提供、さらにはアウトリーチ・プログラムの評価に至るものまで、非常に幅広い図書館の直接サービスを含んでいることが分かった。

6.3 図書館プログラムの構築（18件）

調査対象の記事のなかで「蔵書構築」、「アウトリーチ」に次いで3番目に多く取り上げられていた「図書館プログラムの構築」（18件）について、図書館プログラムの種類毎のカテゴリ分けした結果、「At-risk 状態の若者への図書館プログラム全般」が7件と最も多く、続いて「At-risk 状態の若者を対象とした学習支援プログラム」（5件）、「ICTを活用したプログラム、メディア教育、メディア・リテラシー教育のプログラム」（3件）、「若者の問題行動（ネットいじめ）防止プログラム」（2件）、「At-risk 状態の若者を対象としたヤングアダルトサービスのトレーニング・プログラム」（1件）がそれぞれ取り上げられていた。

表7
At-risk 状態の若者対象の図書館プログラム（概要）

At-risk状態の若者対象の図書館プログラム（概要）	件数
At-risk状態の若者への図書館プログラム全般	7
At-risk状態の若者を対象とした学習支援プログラム	5
ICTを活用したプログラム、メディア教育、メディア・リテラシー教育のプログラム	3
若者の問題行動（ネットいじめ）防止プログラム	2
At-risk状態の若者を対象としたヤングアダルトサービスのトレーニング・プログラム	1
計	18

また、それぞれの図書館プログラムのより具体的な内容を調べた結果、想定されている利用対象者層のタイプや提供サービスの種類が非常に多岐にわたっていることが分かった。例えば、図書館プログラムの想定対象者層のタイプでは、ホームレスの若者、収監状態の若者、移民やニューカマーなど ESL（English as a Second Language）層に属する若者、児童・ヤングアダルト層全般、地域コミュニティの若者、貧困家庭の若者、ネットいじめの被害を受けている、もしくは加害者としての若者など、多様な利用対象者層が想定されていることが分かった。また、提供サービスの種類についても、コネクテッド・ラーニング（仲間や大人の協力を得ながら子どもの特定の関心を学業やキャリアにつなげる教育）、STEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics）教育支援、批判的読解力・思考力の教育支援といった学習支援を目的とする図書館プログラムに加え、デジタルツールなど ICT（情報通信テクノロジー）を活用したメディア教育、また、薬物使用防止教育やネットいじめ防止に向けた教育といった At-risk 状態の 10 代若者が抱える特定の問題に焦点を合わせた教育プログラム、さらには、YA サービス担当者の異文化適応能力の育成など、非常に幅広い内容のサービスを提供していることが分かった。

表 8
At-risk 状態の若者対象の図書館プログラム（詳細）

At-risk状態の若者を対象とした図書館プログラム（詳細）	件数
<i>At-risk状態の若者への図書館プログラム全般</i>	7
・若者の発達段階を意識したストレス・フリーの居場所スペースの構築	1
・若者への図書館サービスの充実（スペースづくり、コネクテッド・ラーニング、テクノロジーの活用など）	1
・図書館プログラム（ホームレス、収監状態、ESL層）	1
・図書館プログラム（児童・ヤングアダルト）	1
・図書館プログラム（地域コミュニティの若者）	1
・図書館政策と施設整備	1
・薬物使用防止プログラム	1
<i>At-risk状態の若者を対象とした学習支援プログラム</i>	5
・YALSA（ヤングアダルト図書館サービス協会）とコネクテッド・ラーニング *1	1
・若者のSTEM能力の強化支援	2
・若者へのデジタルツールの提供およびフォーマル・インフォーマル学習の機会創出	1
・批判的読解力・思考力の教育支援	1
<i>ICTを活用したプログラム、メディア教育、メディアリテラシー教育のプログラム</i>	3
・テクノロジーを使用した図書館におけるAt-risk状態の若者へのサービス	1
・教育的テクノロジーを使用したメディアリテラシーの向上	1
・貧困層の若者へのテクノロジーと教育支援	1
<i>若者の問題行動（ネットいじめ）防止プログラム</i>	2
・ネットいじめ防止に向けた教育とプログラム策定	1
・若者のネットいじめの問題行動の理解	1
<i>At-risk状態の若者を対象としたヤングアダルト・サービスのトレーニング・プログラム</i>	1
・YA担当司書の異文化適応能力のトレーニング	1
計	18

*1 「仲間や大人の協力を得ながら子どもの特定の関心を学業やキャリアにつなげる教育」を指す。

なお、分析では「図書館プログラムの構築」には含めなかったが、99 件の記事全体をとおして、ICT にもとづく図書館サービスが、テーマとして多く取り上げられていたことも指摘しておきたい。具体的な内訳をみると、「ICT を使用した At-risk youths を対象とした図書館サービスの提供」(3 件)、「学習支援のためのテクノロジー (educational technology) やメディア・リテラシー教育の促進」(1 件)、「10 代若者を対象とした各種テクノロジーの使用法のガイド」(1 件)、「貧困や暴力の対象となっている 10 代若者を対象としたバーチャル上での学習機会の提供」(1 件)、「貧困家庭で生活する 10 代若者に対する ICT を活用した学習支援」(1 件)、「At-risk 状態にある 10 代若者を含むヤングアダルト全般を対象とした図書館ホームページの作成」(1 件)、「障害を持つ 10 代若者向けの読書案内や電子書籍サービスの環境整備」(1 件)、「10 代若者のインターネット技術やインターネット利用の動向」(1 件)、および「自閉症スペクトラム障害 (ASD :Autism Spectrum Disorder) の利用者の特殊なニーズとデジタル資源の提供」(1 件)であった。

以上の分析結果より、米国の図書館界においては、想定されている利用対象者層のタイプおよび提供サービスの種別の両側面において、多様かつ広範囲にわたる図書館

プログラムが策定されていることが分かった。また分析結果からは、学習支援や読書活動の推進、またメディア・リテラシー教育の提供など、At-risk 状態の 10 代若者を対象とする図書館サービスを促進するために、ICT やインターネット技術が活用されている実態も併せて示唆された。

7. 考察

本研究の目的は、YALSA や ALA および IFLA などから発表された YA サービスに関する主要な報告書やガイドラインの記述内容の分析を行った那珂（2016）の先行研究、および YALSA から出版された唯一の At-risk 状態の 10 代若者を対象とする図書館サービスのガイドラインである *Serving At-Risk Teens: Proven Strategies and Programs for Bridging the Gap* (2013) から十分には掴み切れなかった、現在の米国の図書館界において展開されている「At-risk 状態の要因」毎の図書館サービスの実態とその傾向を明らかにすることであった。そこでまず、米国の図書館における YA サービスの実践報告と研究者による図書館サービスの分析・考察が多く掲載されているヤングアダルト図書館サービス協会発行の YALSA ジャーナルに 2005 年から 2015 年までの過去 10 年間に掲載された記事群のなかから、At-risk 状態の 10 代若者を対象としている図書館サービスの実践報告や研究成果が記述されている記事 99 件分を抽出したうえで内容分析を実施し、米国の図書館において実際に展開されている At-risk 状態の 10 代若者を対象とする図書館サービスを包括的に整理した。その結果は先述の通りである。

この節では、上記で示した分析結果を、*Serving At-Risk Teens: Proven Strategies and Programs for Bridging the Gap* (2013) に示されている「At-risk 状態の要因」カテゴリに対し、研究者が一部加筆・修正を加えた「At-risk の要因カテゴリ」に当てはめ、本研究の目的である、At-risk 状態の要因毎の図書館サービスを整理し直した。以下に、その結果を記す。

7.1 本研究で使用した At-risk 状態の要因カテゴリについて

全 99 件の記事の内容分析の過程において、*Serving At-Risk Teens: Proven Strategies and Programs for Bridging the Gap* (2013) に示されているオリジナルの「At-risk 状態の要因」カテゴリには含まれていない 4 カテゴリ（「暴力」、「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」、「身体的または性的虐待」および「難民」）を新たに見出した。本研究では、この 4 カテゴリを新規に追加した「At-risk 状態の要因カテゴリ」（表 9）を使用する。

表 9
At-risk 状態の要因カテゴリ

「At-risk状態の要因」カテゴリのオリジナル(「Serving At-Risk Teens: Proven Strategies and Programs for Bridging the Gap」p.38より)	本研究で使用した「At-risk状態の要因」カテゴリ
Bullying	いじめ、ネットいじめ
The digital divide	デジタル・デバイド (情報格差)
Disabilities	メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害 (学習障害など精神障害を含む)
Mental health	
Dropping out of school	不登校状態
Foster care	里親制度
Gang affiliation	ギャングとの親交や少年施設への収監
Homelessness	ホームレス状態
Actual or perceived sexual orientation	LGBTもしくはLGBTQなど異なる性的指向
Immigration	移民：新規の移民もしくは英語を母国語としないティーン
Poverty	貧困
Teen pregnancy or teen parenthood	10代親や10代の妊娠
Running away from home/dismissal from home	家出
Substance abuse	薬物乱用
	暴力
	サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk状態
	身体的または性的虐待
	難民

* 複数のオリジナルのカテゴリを統合したカテゴリ

** 新規に追加したカテゴリ

7.2 At-risk 状態の要因カテゴリ毎の記事件数

まず、全 99 件の記事対象に内容分析を通して At-risk 対象者を特定した後、それにもとづき前後の文脈を考慮しながら At-risk 状態の要因をコーディングし、カテゴリ毎の記事件数を調べた。その結果、表 10 に示す通り、全体の約 3 割を「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」が締め (30 件)、続いて、「移民：新規の移民もしくは英語を母国語としないティーン」(19 件)、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」(15 件)、「メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害 (学習障害など精神障害を含む)」(10 件)、「デジタル・デバイド (情報格差)」(5 件)、「貧困」(4 件)、「いじめ、ネットいじめ」(3 件)、「ホームレス状態」(4 件)、「その他」(9 件)であった。また「その他」(9 件)には、「ギャングとの親交や少年施設への収監」(2 件)、「薬物乱用」(2 件)、「不登校状態」(1 件)、「身体的または性的虐待」(1 件)、「難民」(1 件)、「10 代親や 10 代の妊娠」(1 件)、「暴力」(1 件) がそれぞれ含まれていた。

表 10
At-risk 要因カテゴリごとの記事件数

At-risk 要因カテゴリ	件数
サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態	30
移民：新規の移民もしくは英語を母国語としないティーン	19
LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向	15
メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害（学習障害など精神障害を含む）	10
デジタル・デバイド（情報格差）	5
貧困	4
いじめ、ネットいじめ	3
ホームレス状態	4
ギャングとの親交や少年施設への収監	2
薬物乱用	2
不登校状態	1
身体的または性的虐待	1
難民	1
10代親や10代の妊娠	1
暴力	1
総計	99

一方で、At-risk 状態の要因カテゴリのなかで最も扱われている件数が多い「サービスが十分に行き届いていない状態／ At-risk 状態」カテゴリの内訳を見るため、30 件の記事の文中に記述されている At-risk 状態の要因を示す用語を抽出した結果、表 11 に示す通り、116 件の具体的な At-risk 状態の要因を抽出することができた。上記の結果より、YA サービスを提供している米国の公共図書館において、図書館サービスの提供対象者のなかには、多様な At-risk 状態の 10 代若者が認識されていることが分かった。

表 11
「サービスが十分に行き届いていない状態／ At - risk 状態」の内訳

サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態の内訳	件数
複数の At-risk 状態の要因の混合	28
アフリカ系アメリカ人、ラテンアメリカ、歴史的に過小評価されてきたマイノリティーの若者、民族的・人種的マイノリティー、移民、英語を母語としない者	12
サービスが十分に行き届いていない状態／恵まれない境遇にいる／At-risk 状態の若者	10
身体的・性的虐待、薬物乱用、薬物中毒、アルコール中毒、対人関係における虐待	9
ホームレス（LGBTQ、低所得家庭の若者、シェルターや地域センター等）	8
若年妊娠、計画外妊娠、若年妊娠防止プログラム	7
メンタルヘルスに問題を抱えている者（不安、気分の落ち込みなど）	6
少年院施設	6
低所得層、貧困状態	6
不登校、不登校親和群、ひきこもり	6
LGBTQ など異なる性的指向や性的同一性	4
いじめ、ネットいじめ、ハラスメント	4
身体的・精神的障害	4
低い学力達成度、低いデジタル・リテラシー、低い水準のスクール・レディネス、読書嫌い	4
里親制度を利用している者	2
総計	116

7.3 At-risk 状態の要因ごとの主要な図書館サービス

上記の結果を踏まえたうえで、At-risk 状態の要因ごとに提供されている図書館サービスの内訳を整理し直した結果（表 12）を以下に記す。

表 12
At-risk の要因ごと図書館サービス

図書館サービス/At-risk 状態の要因	総計	サービスが十分に行き届いていない状態/At-risk 状態	移民・新規の移民もしくは英語を母国語としないティーン	LGBTもしくはLGBTQなど異なる性的指向	メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態/身体的・精神的障害（学習障害など精神障害を含む）	デジタル・デバイド（情報格差）	貧困	いじめ、ネットいじめ	ホームレス状態	ギャングとの親交や少年施設への取監	薬物乱用	不登校状態	身体的または性的虐待	難民	10代親や10代の妊娠	暴力
蔵書構築	30	4	5	13	5			1					1		1	
アウトリーチ	24	12	3	1	1	1	3	2	3	2				1		
図書館プログラムの構築	18	4	6								2	1				
YAサービス（レファレンス）	7	5	1		1											
デジタル・デバイドの解消/インターネット・アクセス	6		1		1	4										
YAサービス（その他）	3	2	1													
図書館スペース構築（学習スペースや居場所づくり等）	3			1			1									1
その他	8	3	2		2			1								
総計	99	30	19	15	10	5	4	3	4	2	2	1	1	1	1	1

a. 「サービスが十分に行き届いていない状態 / At-risk 状態」×「アウトリーチ」

表 12 に示されている通り、「サービスが十分に行き届いていない状態 / At-risk 状態」を要因とする 10 代若者に対して提供されている図書館サービスとして、「アウトリーチ」が全体の件数の半数を占めており、際立って多いことが分かった。また、「サービスが十分に行き届いていない状態 / At-risk 状態」の若者を対象としたアウトリーチの提供先が「少年院施設や地域の拘置所」や「サービスが十分に行き届いていないティーンエイジャーが居住する地域コミュニティ」が多かった点(1.2)に加え、「サービスが十分に行き届いていない状態 / At-risk 状態」の内訳（表 11）には、移民や英語を母語としない者、薬物・アルコール中毒の者、虐待を受けている者、ホームレス状態の者をはじめとする多様なタイプの At-risk 状態の要因を持つ利用者が含まれていることから、現在の米国の図書館において提供されているアウトリーチが提供されているだろうと推察できる。

b. 「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」×「蔵書構築」

その一方で、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を At-risk 状態の要因とする 10 代若者に対して提供されている図書館サービスのほとんどを資料選書による「蔵書構築」が占めていた。このことは逆に、このタイプの At-risk 状態の要因を持つ利用者に対して「蔵書構築」以外のサービスはほとんど提供されていないことを示している。なお、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を At-risk 状

態の要因とする 10 代若者に対して提供されている蔵書構築の内訳として、LGBT もしくは LGBTQ の若者向け資料の選書・提供サービスとほぼ同割合で、LGBT もしくは LGBTQ の若者が抱える問題を扱った資料の選書・提供サービスも含まれていることから、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を At-risk 状態の要因とする 10 代若者を対象とした「蔵書構築」サービスには、LGBT もしくは LGBTQ への理解を促す目的で、LGBT もしくは LGBTQ 以外の利用者もサービス対象として設定されていると推察できる。

c. その他の At-risk 状態の要因と提供されている図書館サービス

その他のタイプの At-risk 状態の要因を持つ 10 代若者に対して提供されている図書館サービスについては次のとおりである。

- 「移民：新規の移民もしくは英語を母国語としない」を At-risk の要因とする若者に対しては、主に「蔵書構築」、「図書館プログラムの構築」、および「アウトリーチ」のサービスが提供されている。
- 「メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害（学習障害など精神障害を含む）」を At-risk の要因とする若者に対して提供されている図書館サービスのほとんどが「蔵書構築」（At-risk youths 向けの選書）であった。このことから、このタイプの At-risk 状態の要因を持つ利用者に対する学習支援は、図書館の提供サービスには含まれていないことが推察できる。
- 「デジタル・デバイド（情報格差）」を At-risk の要因とする若者に対しては、「ICT（情報通信テクノロジー）に基づいた各種プログラム、メディア教育、メディア・リテラシー教育」などを目的とする「デジタル・デバイドの解消／インターネット・アクセス」が提供されている。
- 「貧困」を At-risk の要因とする若者に対しては、「批判的読解力・思考力の教育支援」や「ICT（情報通信テクノロジー）に基づいた各種プログラム、メディア教育、メディア・リテラシー教育」といった、学習支援を組み込んだ「図書館プログラムの構築」が提供されている。
- 「いじめ、ネットいじめ」を At-risk の要因とする若者に対しては、「ネットいじめ防止に向けた教育とプログラム策定」や「ネットいじめなどティーンエイジャーの問題行動の把握」といった「図書館プログラムの構築」、および「いじめ防止のための各種資料収集」を目的とする「蔵書構築」が提供されている。
- 「ホームレス状態」を At-risk の要因とする若者に対しては、「少年院施設内でのアウトリーチ、デジタル機器やデジタル資源の提供」、「ホームレスの若者向けの資料提供、または学習支援」、および「移民の若者に対するサービス提供」といった「アウトリーチ」が提供されている。
- 「ギャングとの親交や少年施設への収監」を At-risk の要因とする若者に対しては、「少年院施設内でのアウトリーチ、デジタル機器やデジタル資源の提供」を目的とする「アウトリーチ」が提供されている。

- 「薬物乱用」を At-risk の要因とする若者に対しては、「At-risk youths 向け図書館プログラム」や「薬物使用防止プログラム」といった「図書館プログラムの構築」が提供されている。
- 「不登校状態」を At-risk の要因とする若者に対しては、「若者へのデジタルツールの提供およびフォーマル・インフォーマル学習の機会創出」を目的とする「図書館プログラムの構築」が提供されている。
- 「身体的または性的虐待」を At-risk の要因とする若者に対しては、「At-risk 状態の若者向けの資料の選定」といった「蔵書構築」が提供されている。
- 「難民」を At-risk の要因とする若者に対しては、「難民の若者を対象とした図書館サービス」として「アウトリーチ」が提供されている。
- 「10代親や10代親の妊娠」を At-risk の要因とする若者に対しては、「避妊について書かれている資料の選定」といった「蔵書構築」が提供されている。
- 「暴力」を At-risk の要因とする若者に対しては、「図書館スペース構築(学習スペースや居場所づくり等)」が提供されている。

表 13
At-risk の要因ごと図書館サービス（上位 3 位）の内訳

図書館サービス（上位3位）／At-risk状態の要因		総計	サービスが十分に提供されていない状態／At-risk状態	移民の移民もしくは英語を母語としないティーン	LGBTもしくはLGBTQなど異なる性的指向	インクルーシブヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害（学習障害など精神障害を含む）	デジタル・デバイス（情報格差）	貧困	いじめ、ネットいじめ	ホームレス状態	ギャンブルとの関与や少年施設への収監	薬物乱用	不登校状態	身体的または性的虐待	難民	10代中や10代の妊娠	暴力	
書籍構築	資料選定（LGBTQ等について書かれている資料）	7			7													
	資料選定（障害やメンタルヘルスに問題を持つ若者向けの資料）	5				5												
	資料選定（LGBTQの若者向けの資料）	6				6												
	資料選定（文化的・民族的な背景を持つ若者向けの資料）	3		3														
	資料選定（At-risk状態の若者向けの資料）	2	1											1				
	YA向け資料の選定におけるライブラリアンシップ	1		1														
	いじめ防止のための各種資料収集	1							1									
	資料選定（宗教やスピリチュアリティについて書かれている資料）	1	1															
	資料選定（読書嫌いの若者向けの資料）	1	1															
	資料選定（避妊について書かれている資料）	1															1	
	資料選定（豊かな感情や共感を育てるための資料）	1	1															
	資料選定（様々な家族の在り方を描いている資料）	1		1														
	（書籍構築）小計		30	4	5	13	5		1					1			1	
	アウトリーチ	少年院施設内でのアウトリーチ、デジタル機器やデジタル資源の提供	7	3				1		1	2							
地域コミュニティ、関連施設や団体、親のグループと連携した各種アウトリーチ、学習支援		6	4	1	1													
ホームレスの若者向けの資料提供、または学習支援		3	2						1									
オルタナティブ・スクール内でのアウトリーチ		1	1															
ヤングアダルト一般向けの資料選定		1	1															
ラテン・アメリカ系の若者へのアウトリーチ		1		1														
移民の若者に対するサービス提供		1							1									
矯正・リハビリ施設内でのアウトリーチ		1	1															
若者向けサービスのガイドライン策定		1	1															
特別な支援を必要とする人へのアウトリーチ		1					1											
難民の若者を対象とした図書館サービス		1														1		
（アウトリーチ）小計		24	12	3	1	1	1		3	2					1			
図書館プログラムの構築	YALSAとコネクテッド・ラーニングとの協働作業	1		1														
	YA担当司書の異文化適応能力のトレーニング	1	1															
	テクノロジーを使用した図書館におけるAt-risk状態の若者へのサービス	1		1														
	ネットいじめ防止に向けた教育とプログラム策定	1							1									
	教育的テクノロジーを使用したメディア・リテラシーの向上	1		1														
	若者のSTEM能力の強化支援	2		2														
	若者のネットいじめの問題行動の理解	1							1									
	若者の発達段階を意識したストレス・フリーの居場所スペースの構築	1	1															
	若者へのデジタルツールの提供およびフォーマル・インフォーマル学習の機会創出	1												1				
	若者への図書館サービスの充実（スペースづくり、コネクテッド・ラーニング、テクノロジーの活用など）	1							1									
	図書館プログラム（ホームレス、収監状態、ESL層）	1	1															
	図書館プログラム（児童・ヤングアダルト）	1											1					
	図書館プログラム（地域コミュニティの若者）	1		1														
	図書館政策と施設整備	1	1															
	批判的読解力・思考力の教育支援	1							1									
貧困層の若者へのテクノロジーと教育支援	1							1										
薬物使用防止プログラム	1											1						
（図書館プログラムの構築）小計		18	4	6				3	2			2	1					

7.4 考察

以上の At-risk 状態の要因カテゴリ毎に提供されている図書館サービスを再整理した結果より、過去 10 年（2005 年～2015 年）における米国の図書館界の At-risk 状態の若者に対する図書館サービスの特長について、「蔵書構築」の提供対象者が、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を At-risk 状態の要因とする若者が中心である一方で、「アウトリーチ」の提供対象者は、「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」の若者全般である（表 12 および表 13 参照）ことから、「蔵書構築」と「アウトリーチ」とのサービス間で、提供対象者がはっきり区別されている、すなわち、提供サービスと提供を受ける利用者との間に二極化が発生していることが分かった。

まず「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を At-risk 状態の要因とする若者に対する「蔵書構築」サービスであるが、本研究の分析対象の記事が投稿された 2005 年から 2015 年までの 10 年間に作成された YA サービス関連の文献を調査した那珂（2016）によれば、この時期に米国の図書館界は、「これまで公には十分に理解されてこなかった LGBT（省略）を抱える若者（省略）」といった多様な認識が生まれてきている」（那珂，2016）とし、この時期に米国の図書館界は「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」（那珂，2016）を At-risk 状態の若者の実態を具体的に認識し始めた、と指摘する一方で、各文献では、『LGBT ティーン』（省略）などを含む at-risk youth のタイプに対しては具体的な図書館サービスは挙げられていない」（那珂，2016）と問題点を指摘している。しかし本研究の分析結果は、実際の図書館の現場では「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」という At-risk 状態の要因を持つ若者に対して「蔵書構築」（LGBT もしくは LGBTQ の若者向け資料の選書・提供サービス、および LGBT もしくは LGBTQ の若者が抱える問題を扱った資料の選書・提供サービス）という具体的な図書館サービスが実践されていること（もしくはその必要性が認識されていること）が分かり、各文献と実際の図書館の現場では少なからずタイムラグが生じていることが窺える。むしろ、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」という At-risk 状態の要因を持つ若者への図書館サービスが「蔵書構築」サービスに特化しているということは、裏を返せば、アウトリーチが必要な「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」を持つ若者に十分な資料提供が出来ていない可能性もあることが問題点として示唆されよう。

次に「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」を At-risk 状態の要因とする若者に対する「アウトリーチ」サービスであるが、図書館の潜在的利用者層を発掘する必要性を述べる際にしばしば使用される「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」という用語（英語では“underserved”と表記する）が、2005 年から 2015 年までの 10 年間に作成された YA サービス関連の文献のなかでしばしば使用されていることから、「近年の米国図書館界における At-risk youth に対

する認識が、他者化から同類化（もしくはユニバーサル化）へと移行している」（那珂，2016）と考えられるが、本研究で明らかにした通り、この用語は米国の図書館におけるサービス実践報告の記事のなかでも多く使用されており、「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」の若者に対する、いわば「同類化」された図書館サービスが、図書館の「実践の場」においても確実に進んでいることが考えられる。そのうえで、At-risk 状態の若者に対して「同類化」された図書館サービスが専ら「アウトリーチ」に留まり、「蔵書構築」の対象者に含まれていない（表 12 および表 13）ことは問題点として指摘しておきたい。つまり、「サービスが十分に行き届いていない状態／At-risk 状態」の若者への「アウトリーチ」サービスが、その他のサービス（例えば「蔵書構築」）には十分に繋がってはいないと推察される。この推察に立てば、蔵書構築など館内における様々な取り組みにもかかわらず、多様な At-risk 状態の若者は、依然として図書館施設へ物理的にアクセスすることが出来ていない状態にある、という問題点があると言えるかもしれない。

8. まとめと今後の課題

本研究の目的は、YALSA ジャーナルに過去 10 年間（2005 年～2015 年）に投稿された記事の内容分析を通して、米国の公共図書館において多様な At-risk 状態の要因を持つ 10 代若者に対して、実際にどのような図書サービスが提供されているのか、その傾向を把握することであった。記事の内容分析の結果、米国の図書館では、At-risk 状態の要因を持つ 10 代若者に対して、それぞれの At-risk 状態の要因毎に異なる多様な図書館サービスが提供されていることが分かった。しかし、その一方で、At-risk 状態の要因を持つ 10 代若者に対して提供されている図書館サービスが「蔵書構築」、「アウトリーチ」、および「図書館プログラムの構築」の三つに偏向する傾向があり、さらに、そのうち「蔵書構築」および「アウトリーチ」とのサービス間では、提供対象者がはっきり分かれる二極化の傾向があることも明らかになった。

翻って日本社会における若者にかかわる諸問題を見渡すと、「LGBT もしくは LGBTQ など異なる性的指向」、「メンタル・ヘルスに問題を抱えた状態／身体的・精神的障害（学習障害など精神障害を含む）」、「貧困」など、既に米国の図書館界が図書館サービスの提供対象者として捉え、また実際にサービス提供を実施しているカテゴリに属する若者と似た環境に置かれている若者が多く存在していることが分かる。近年では、地域のなかで居住する「日本語を母国語としない」若者も多くなっており、「多文化共生」を掲げる地方自治体も増えている。さらに、日本特有の若者にかかわる社会現象と考えられている「不登校」や「ひきこもり」（「ひきこもり」の高齢化も社会問題化しつつある）に苦しんでいる若者も増加傾向にある。このように、現在の日本社会において、徐々に認知され、また問題として取り上げられ始めている多様な At-risk 状態の要因を持つ若者に対して、日本の図書館界は、本研究で扱った米国の図書館界のケースと同様に、資料提供やアウトリーチをはじめ、何らかの学習支援や

情報支援の対策を講じる必要があると考えられる。しかしながら、日本の図書館、とりわけ公共図書館において、若年層への図書館サービスである「児童サービス」や「ヤングアダルトサービス」に加えて、日本語を母語としない若年層への図書館サービスとしての「多文化サービス」のなかで、これら多様な At-risk 状態の要因を持つ若者に対して、どのような図書館サービスを、どのような方法で、また、どこまでの範囲で提供すべきか、について、これまで十分な議論がなされてはこなかった、というのが筆者の印象である。

したがって、今後の研究の展開として、日本の図書館、とりわけ公共図書館において、児童サービス、ヤングアダルトサービス、および多文化サービスのなかで、At-risk 状態の要因を持つ若者に対して、どのような図書館サービスが提供されてきたのか、全国的な調査など全体的な傾向を見る研究や、本研究で行ったような事例ベースの研究が今後望まれる。また、これまでの日本の図書館において、多様な At-risk 状態の要因を持つ若者に対する図書館サービスの在り方が十分に議論、検討されてこなかったのであれば、それは、どのような理由からなのか、図書館固有の問題に起因する理由か否かなど、At-risk 状態の要因を持つ若者への図書館サービスの提供の制約について調べ明らかにすることも、今後の望まれる研究の展開として挙げておきたい。

参考文献

- (1) 那珂 元 . 米国図書館界における at-risk youth の認識と図書館サービス : IFLA、ALA、および YALSA 関連文献の内容分析を通して . 中部図書館情報学会誌 . 2016, vol. 56, p. 1-18.
- (2) Craig, A., & McDowell, C. L. (2013). *Serving at-risk teens: Proven strategies and programs for bridging the gap*. Chicago, IL, USA: American Library Association.